

～大腸がんの早期発見に検診を～

大腸がんは早期に発見すれば治療が可能です。大腸がんの死亡者数は、年々増加し、近年大腸がんは、がん死亡の疾患として上位に位置しています。

便潜血検査は、がんやポリープなどの大腸疾患で、大腸内に出血した血液を検出する検査です。大腸がんは初期の段階で自覚症状が出るのが少ないため、早期発見・早期治療のためには、年1回の検診が重要です。

また、症状がある場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

正しい便の採り方

大腸がんやポリープがあると、便が腸内を移動する際に便と組織がこすれて便に血液が付着します。目に見えないわずかな出血が均等にはつかないため、便の表面をこすって採便することが重要であり、また、便は二日分採ることが必要となります。採便した便の傷みを防ぐため、採便した容器は、冷蔵保存が望ましいとされ、また、採便後はすぐに大腸がん検診医療機関などへ提出してください。

※便潜血検査による大腸がん検診は、死亡率減少効果があることが認められていますが、100%の精度ではありません。がん検診で必ず見つけれられるわけではないこと（偽陰性）、がんがなくても検診の結果が「陽性」となる場合もあること（偽陽性）、がん検診で見つかったがんが「治療しなくても死亡の原因にならない」場合があること（過剰診断）などをよく理解した上で正しい知識をもってがん検診を受診してください。

検診結果・精密検査の方法

<精密検査不要>

検査の結果、その時点では「精密検査の必要がない」という意味です。今回異常がなくても定期的に検診を受けましょう。

<要精密検査>

要精密検査とされた方は、消化器科のある医療機関で必ず検査を受けましょう。

便潜血検査の再検査は不適切とされ、精密検査としては、内視鏡検査や注腸エックス線検査などを行います。第一選択は内視鏡検査となります。

※精密検査の結果は個人情報保護法の例外事項であり、個人の同意がなくても依頼のあった自治体へ報告することとなっております。

大腸がんの原因と予防

大腸がんの原因は、肉食中心の欧米型の食事や過度の飲酒などの生活習慣が影響しているといわれています。適度な運動やバランスのとれた食生活を心がけましょう。

男女別部位別がん死亡数の順位（2022年）

	1位	2位	3位	4位	5位
男	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

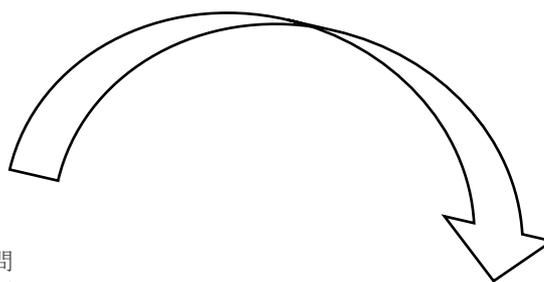
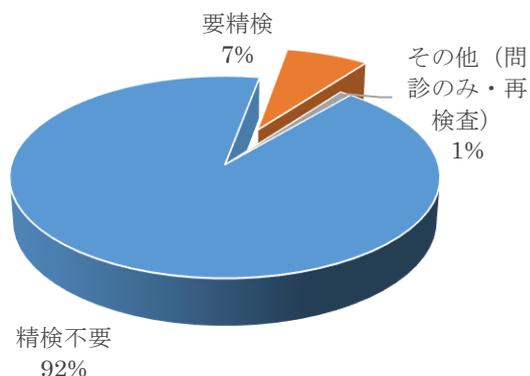
資料：がんの統計 2024（公益財団法人 がん研究振興財団 発行）

*東大和市では令和4年中に44人の方が大腸がんで命を落としています。

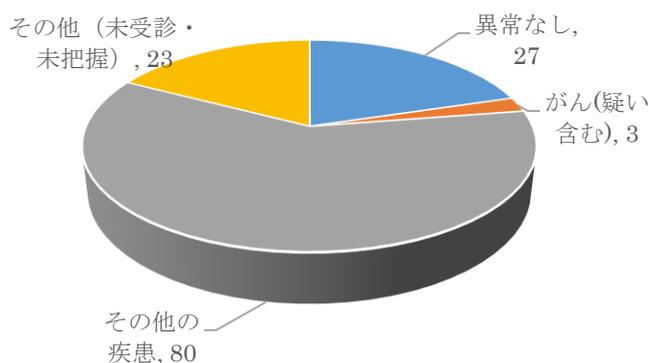
令和5年度東大和市における大腸がん検診実施状況

東大和市で大腸がん検診を受診した1840人のうち、検診結果で要精密検査となった方は133人でした。精密検査を受診した方の結果は、大腸がん（疑い含む）3人、その他の疾患80人、異常なし27人でした

一次検診受診者 1840人
要精密検査者 133人



要精密検査者133人の内訳



お問い合わせ：東大和市健幸福祉部健康推進課成人保健係（東大和市立保健センター内） 電話：042-565-5211（月～金 9時～17時）